

8. 主な報道発表 (2022 年 9 月 2 日以降)



◀こちらから当社ホームページをご覧ください

詳細な内容は当社ホームページ <http://www.japc.co.jp> をご覧ください。

主な報道発表はございません

げんでんふれあいギャラリー展示のお知らせ



◀こちらから げんでんふれあいギャラリーのホームページをご覧ください

ふじた ゆきお
◆**藤田 幸雄写真展「つるがの魅力発信！」** 10月4日(火)～10月9日(日)(最終日は15:00まで)
藤田 幸雄様による写真展です。敦賀の四季折々の景色、イベント、行事などを撮影した作品を35点展示予定です。

らくさい たかむら つねこ
◆**楽しく想いがままだに描こう** 10月18日(火)～10月23日(日)
楽彩会(代表:高村 恒子 様)の3名の皆様による絵画展です。
楽しみながら絵を描くことをモットーとされている皆様の作品を30点展示予定です。

はっしゅう
◆**第16回八 洲 学童書展** 10月25日(火)～10月30日(日)
八洲書道教室(代表:幸光 八洲 様)の小学生から高校生までの児童生徒の皆様による作品展です。
硬筆と毛筆で書かれた作品を100点展示予定です。後援:敦賀市教育委員会



◀感染防止徹底宣言ステッカーを取得しています

お問合せ

げんでんふれあいギャラリー 敦賀市本町2丁目9-16
フリーダイヤル 0120-749-201 FAX 0770-25-5603
開館時間 10:00～16:30※ 休館日 12月29日～1月3日
※新型コロナウイルス感染予防対策のため、開館時間を短縮しています。
<http://www.japc.co.jp/tsuruga/fureai/event/fureai.html>

ご存じですか? クリアランス Vol.7

今回は、海外でのクリアランス制度と実績についてご紹介します。

日本では、クリアランス制度が社会に定着するまでの間、電力業界内での活用や理解促進のための展示に限定しています。一方、クリアランス制度が導入されている各国では、クリアランス金属を再利用先に限定なくリサイクルしています。

海外での主な金属のリサイクルの実績は次のとおりです。

国名	実績例(調査情報)
米国	ES社※が1991～2015年に金属62,000 tを溶融してリサイクル
カナダ	ES社※2006～2015年に金属2,000 tを溶融してリサイクル
ドイツ	Siempelkamp社※2が金属20,000 tを溶融してリサイクル うち、12,000 tを原子力業界、7,000 tをそれ以外
スウェーデン	Studvik社※2が1987～2015年に金属44,700 tをリサイクル

ドイツでのリサイクルの様子



クリアランス金属の溶融



インゴット(鋳塊)

※: EnergySolutions 社、米国の廃止措置専門会社で、運転・廃止措置工程において発生した汚染金属を溶融し、原子力関連施設内で利用できる製品(遮蔽ブロック等)を製造

※2:ヨーロッパの原子力産業由来の金属溶融を事業化している企業



クリアランス制度とは?

原子力発電所の解体などで発生する廃棄物のうち、放射性物質の濃度が極めて低く人体への影響が無視できるレベルで、国による測定結果の確認を得たものはリサイクル可能な一般の廃棄物として取り扱えるようにする制度。人体への影響が無視できるレベルは、1年間に受ける放射線の量が0.01ミリシーベルト(自然から受ける放射線の1/100以下)。

本資料の作成元・お問合せ先: 日本原子力発電株式会社(略称: げんでん) 敦賀事業本部 立地・地域共生部

TEL: 0770-25-5713 住所: 敦賀市本町2丁目9-16



げんでん いんふおめーしょん 10月号

2022 年 10 月 3 日

No.218

1. 敦賀発電所の状況 (2022 年 10 月 3 日現在)

プラント(炉型)	状 況
1号機(沸騰水型) 	●2017年5月15日より 廃止措置工事实施中 (廃止措置期間: 24 年) ○2015年4月 営業運転終了 ○取水口エリア解体工事(2022年10月3日～) 廃止措置とは、運転を終了した原子力発電所を解体・撤去し、これに伴い発生する廃棄物を処理・処分し、更地にするまでの一連の作業・措置のこと。
2号機(加圧水型) 	電気出力 116.0 万 kW, 1987年2月17日の営業運転開始以降の総発電電力量 1922 億 9908.3 万 kWh ●2011年8月29日～ 第18回定期検査中 ●新規制基準への適合性確認審査対応中 ○福島第一原子力発電所事故を踏まえた安全対策を行っています。
= 敦賀発電所2号機の新規制基準への適合性確認審査の状況について = 原子力規制委員会による審査は、現在、敷地内破砕帯評価と地震動評価(地震の揺れ)の二つの論点について進められています。 2020年2月の敷地内破砕帯評価に関する審査会合において、敷地北側にある断層(K断層)と2号機原子炉建屋の直下にある破砕帯との関連性について当社から説明したところ、審査資料に当初記載していたボーリングコアの肉眼による観察結果を削除し、詳細データとなる顕微鏡によるコアの薄片観察結果のみの記載に変更したことについて、不適切であるとのこと指摘を受けました。 ご指摘を受けた件については、審査とは別に品質保証に係る検査として確認していただくことで、審査を継続していただいておりますが、2021年8月18日に開催された原子力規制委員会において、「調査データに基づく当社の評価結果の信頼性が確保されるために必要な業務プロセスの構築が確認されるまでの間は、審査会合を実施しない」という方針が示されました。 当社は業務プロセスの構築を行うため社内規程を改正し、2022年5月から9月にかけての原子力規制検査で説明を行い、適宜ご指摘に対して改善を図ってまいりました。 また、改正した社内規程についての教育を行うとともに、審査資料作成計画書を作成、本計画書に基づき破砕帯審査資料を作成し、社内監査によりこれら一連の業務プロセスが適正に行われたことを確認しました。 9月29日に行われた原子力規制検査の公開会合では、改善を図ってきた当社の業務プロセスの構築状況が審議され、概ね妥当である旨の判断をいただきました。 今後、10月に原子力規制委員会において、当社の業務プロセスの構築状況が報告される予定です。 審査の進展をご期待いただいている地域の皆さまに多大なるご心配をおかけしておりますことを、心より深くお詫び申し上げます。 敦賀発電所2号機は、当社の経営の柱であることから、引き続き原子力規制委員会に真摯に対応してまいります。	

2. 敦賀発電所3, 4号機準備工事の状況 (2022 年 10 月 3 日現在)

現在、原子炉建屋背後斜面の緑化管理等の建設予定地維持管理およびコンクリート製造・供給プラントの設備維持管理等を継続して行っています。



建設予定地の状況(2022年9月26日撮影)

3. トピックス

自民党リブレース推進議員連盟による発電所視察

9月22日、稲田衆議院議員が会長を務める「脱炭素社会実現と国力維持・向上のための最新型原子力リブレース推進議員連盟」の8名の皆さまに、敦賀発電所3、4号機建設予定地と敦賀発電所2号機原子炉格納容器をご視察いただきました。

敦賀発電所3、4号機は、これから建設していく発電所として、福島第一原子力発電所事故の教訓を反映し、より一層、安全性、信頼性の高いものとして計画していきます。

当社は、これからも敦賀発電所3、4号機の早期実現に向けた取組みを継続してまいります。



3、4号機建設予定地のご視察の様子

4. コミュニケーション活動

(1) げんでんアドバイザー※施設見学会を実施

9月5日、げんでんアドバイザーの皆さまを対象に、当社施設である敦賀総合研修センター（以下、「研修センター」）および美浜原子力緊急事態支援センター（以下、「支援センター」）の見学会を実施いたしました。

研修センターでは、敦賀発電所2号機中央制御室を模したフルスコープシミュレータや原子力発電所の設備や機器の模型が設置されたプラントモデル室など、また、支援センターでは遠隔操作可能なロボットやドローン、無線重機などを見学していただきました。

また、見学会では、「シミュレータ訓練頻度」や、「事故時の被ばく線量」などについてのご質問にお答えしながら、意見交換を行いました。

今後も引き続き、アドバイザーの皆さまとのコミュニケーションを更に深めるよう努めてまいります。



施設概要説明の様子



設備や機器の模型見学の様子



ロボットの見学の様子



重機操作の見学の様子

【敦賀総合研修センター】

【美浜原子力緊急事態支援センター】

※当社は、地域の皆さまとのコミュニケーション活動を通じ、その中でいただいた貴重なご意見を事業運営に生かして行く取組みを進めています。この取組みの一つとして、各種団体からご推奨頂いたメンバー方による「げんでんアドバイザー懇談会」を実施しています。

(2) げんでんふれあいトークを実施

9月13日、当社の美浜原子力緊急事態支援センターをご視察された福井県消防学校の皆さまを対象に、「げんでんふれあいトーク」として原子力防災などについてご説明しました。「施設を知ることができた」「実際に見て、とてもわかりやすく勉強になった」などのご感想をいただきました。

「げんでんふれあいトーク」は、当社社員が地域の皆さまのところにお伺いして、原子力発電に関することをわかりやすくご説明し、皆さまとの意見交換をとおしてコミュニケーションを深めさせていただく活動です。自治会の会合、サークルの集まりなどに、ぜひ、お声かけください



ふれあいトークの様子

※お時間は30分程度※

●自治会やサークルの他、少人数の集まりにもお伺いします。

●テーマは、
・原子力発電は、なぜ必要なの？・地震や津波の安全対策は？
・もし事故が起きたら？ など
（その他、ご希望のテーマがありましたら、ご相談ください）

お問合せ

0770-25-5713
立地・地域共生部
（担当：濱多、池田）

5. 次世代層への教育支援活動

小学校への出前授業を実施

「出前授業」は、次世代層の皆さまに科学やエネルギーに興味を持ってもらうため、福井県内の学校に出向いて理科の授業をお手伝いする活動です。9月12日、敦賀市立中央小学校科学クラブの皆さまを対象に「スライム実験」の授業を行いました。スライムは、ぷよぷよとした不思議な触感の物質で、洗濯や防腐剤に使われているホウ砂と、水のりを混ぜることでゼリー状になる作用を利用して作ることができ、身近なもので簡単に楽しく化学反応を体験することができます。

児童の皆さまは、水で溶かしたホウ砂と水のりを慎重に混ぜながら、変化する形状に興味津々のようでした。当社はこれからも、次世代層への科学・エネルギー教育について、さまざまな支援を行ってまいります。



出前授業の様子



ホウ砂と水のり液を混ぜる作業の様子



スライム完成の様子

6. 社会貢献活動

南越前町でのボランティア参加

8月4～5日、福井県嶺北南部を中心に記録的短時間大雨に見舞われました。敦賀発電所に被害はありませんでしたが、南越前町では河川の氾濫等により甚大な被害を受けました。

また、JR北陸線、北陸自動車道、国道8号・365号線が土砂崩れや冠水で不通となり、一時嶺北と嶺南の交通網が遮断される状況となりました。

このような状況の中、8月6日、南越前町の災害ボランティアセンター開設を受け、当社では10日から26日まで社員を派遣し、浸水した家屋での床下の泥上げや家財の運び出し等のボランティア活動に協力させていただきました。

当社は、これからも地域の一員として、地域社会への貢献活動に積極的に協力してまいります。



ボランティア活動受付での様子

7. 敦賀総合研修センター 公開研修コースのお知らせ



◀こちらから敦賀総合研修センターのホームページをご覧ください

敦賀総合研修センターでは、新型コロナウイルスの感染予防対策を講じた上で、29コースの開催を予定しており、以下はお申込み期限間近となっている主なコースの内容です。公開研修コースの詳細、応募方法は、当社ホームページをご覧ください。

<http://www.japc.co.jp/tsuruga-training/index.html>

研 修 名	研 修 概 要	研修期間	申込期限
労働安全衛生コース	従業員や作業員を災害から守るために労働安全衛生法の基礎知識及び安全管理の手法の一つである労働安全衛生マネジメントシステム（OSHMS）について学びます。また、現場作業の危険性を疑似体験することにより安全意識の向上を目指します。 本コースは原子力作業現場に限らず、一般作業現場においても有益な研修です。	12月5日 ～ 12月6日 (2日間)	10月26日
プラントシミュレータコース	原子力発電教育シミュレータを用いて、加圧水型軽水炉（PWR）と沸騰水型軽水炉（BWR）を比較しながらプラント起動操作や原子炉出力変更等の運転操作を模擬体験するとともに、原子力発電所の安全確保の仕組みを学びます。2日間のコースですが、1日単位での受講も可能です。	12月6日 (PWR編) 12月7日 (BWR編)	10月27日

公開研修に関する
お申込み・お問合せ先

敦賀総合研修センター（敦賀市杵見165号9番地6）
電話：0770-21-9700 FAX：0770-21-9726（研修申込み専用）
メールアドレス：tsuruga-tr-center@japc.co.jp

